

岐阜県の小学校における環境教育実践の傾向に関する一考察

学籍番号 2526 氏名 彦坂 祐司
指導教員 市川智史助教授

1 はじめに

21世紀は環境の世紀ともいわれ、地球環境に負荷を与えず、持続可能な社会を築いていくための環境教育の実践が求められている。筆者の出身県である岐阜県においては、1992年に「岐阜県環境教育基本方針」が策定され、岐阜県教育委員会を中心に、ぎふ子ども環境学習フェアやぎふ学校版環境ISOなどの環境教育が推進されてきている。しかし、岐阜県の小学校において、どのような環境教育が実践されているのか、その現状調査は行われていない。そこで本研究では、岐阜県の公立小学校に焦点を絞り、質問紙調査によって環境教育実践の傾向を考察した。

2 岐阜県の小学校における環境教育の概況

岐阜県教育委員会のウェブサイト内にある「岐阜県まるごと環境パビリオン」を用いて、環境教育の実践傾向を調べた。その結果、ウェブサイト等に掲載されている実践事例や教育委員会が推進している事業から見れば、カワゲラウォッチング等の水生昆虫による水質調査を含めた「環境調査」に関する実践が多く見受けられた。

3 質問紙調査

調査対象は、岐阜県内の公立小学校394校（2004年5月現在）の約半数205校とした。回収数は135校（65.8%）であった。調査の結果、例えば、問1ではごみの分別やリサイクル活動（94.1%）、飼育栽培活動（88.1%）、美化・清掃活動（75.6%）、施設見学（68.9%）、自然とのふれあい活動（63.0%）の実践率が高かった。問2では、水生昆虫による水質調査（41.5%）よりも浄水場・下水場の施設見学（64.4%）の方が実践率が高かった。問3では畑体験（87.4%）、花の栽培（72.6%）、メダカの飼育（60.7%）の実践率が高かった。問6では、電気、水、紙の無駄遣いの他、給食を残さず食べる（76.3%）やモノを大切に使う（71.9%）も7割以上の実践率であった。

表 質問項目

【問1】環境教育実践の内容項目について
【問2】水環境に関しての実践、指導について
【問3】動植物の飼育、栽培の実践、指導について
【問4】山や森での自然体験に関して具体的な実践、指導について
【問5】ごみの分別やリサイクルの実践、指導について
【問6】省資源、省エネルギーの実践、指導について
【問7】地域の環境調べや伝統的な生活文化の実践、指導について
【問8】地球環境問題の実践、指導について
【問9】「総合的な学習の時間」における環境に関しての実践、指導について
【問10】環境教育の実践において重視していることについて

4 考察

先行調査結果と、本調査結果を対比したところでは大きな違いは見られず、岐阜県の環境教育実践の特徴を見いだすことはできなかった。だが、本調査の結果では、岐阜県の小学校においては、施設見学、畑体験、ごみの分別・リサイクルといった環境教育が多く実践されている一方で、岐阜県の森や山といった豊かな自然環境を活用した環境教育はあまり実践されていないと言える。